

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 2 0 回相模原市在宅医療・介護連携推進会議		
事務局 (担当課)		在宅医療・介護連携支援センター 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 5 0 (直通) 医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)		
開催日時		令和 5 年 3 月 2 2 日 (水) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 3 0 分		
開催場所		We b 開催 及び ウェルネスさがみはら 3 階 集団指導室		
出席者	委員	1 6 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 1 人 (地域包括ケア推進部長、在宅医療・介護連携支援センター 所長、外 9 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開 会 2 議 題 (1) 相模原市健康づくり推進条例について (情報提供) (2) 第 9 期相模原市高齢者保健福祉計画について (3) 在宅医療・介護連携推進事業の今後の取組について (4) 支え手帳モデル事業に関するアンケート調査結果の概要について (報告) (5) その他 ・定期巡回・随時対応サービス開設セミナーの実施結果について (報告) ・もしバナゲームカードの地域包括支援センターへの配布について (情報提供) 3 閉 会		

議 事 の 要 旨

1 開 会

2 議 題

(1) 相模原市健康づくり推進条例について（情報提供）

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(2) 第9期相模原市高齢者保健福祉計画について

事務局より資料に基づき、説明した。

（佐藤会長）策定体制の図中に『相模原市健康づくり推進条例』を入れた方が良いのではないか。

（事務局） 図中に『相模原市健康づくり推進条例』を入れることとしたい。

(3) 在宅医療・介護連携推進事業の今後の取組について

事務局より資料に基づき説明し、相模原市医療・介護連携推進事業における介護支援専門員研修については土田委員から説明した。

（佐藤会長）地域で開業医をしているが、入院が必要になった時にスムーズに入院できる環境になってきている。入退院についても、看護小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護を利用したり、介護支援専門員や病院のMSWに相談するなど、住み慣れた家で生活する選択肢を提供できる流れになってきた。相模原市は支援が具体的に進んでいる。

(4) 支え手帳モデル事業に関するアンケート調査結果の概要について（報告）

事務局より資料に基づき、説明した。

（佐藤会長）手帳を利用しなかった理由に『手帳に代わるものがある』とあるが、どのようなものがあるのか。

（事務局） お薬手帳やICTによるものなどである。

（佐藤会長）支え手帳は市が何年も取組んできている。モデル事業に留まっているのは「動機」の問題ではないか。本人や事業者等から「手帳を欲しい」と言って来るようであればと思う。

周囲は多職種連携が重要と思っているが、本人からは面倒だったりサイズが大きいなどの意見がある。そのあたりをどうするか検討する必要がある。

(水上委員) 他の開業医の意見で、患者が忘れたなどで手帳を外来に持ってこないケースが多い。ツールについては、製薬メーカー等が発行しているパンフレットの記入欄を利用している患者もいる。手帳は記入のスペースも少なく、アナログでの情報共有が難しいと感じる。アンケートの自由記載で「一方通行」とあるが、医師と患者間だけでなく、ケアマネジャーやヘルパーなどとリアルタイムで情報を共有できると良い。

他市で紙の媒体を利用している所はあるか。また、ICTのツールを利用している市区町村はあるか。

(事務局) 紙の媒体については、他の自治体で、入退院支援も含めて情報共有の手帳を作成している事例がある。ICTについては、支え手帳のような内容を共有している事例は把握していないが、関わりのある多職種間でリアルタイムで情報共有するシステムを導入している事例はある。

(水上委員) 在宅訪問医は、家の玄関や部屋に飾ってあるもの等から本人の趣味やバックグラウンドを知る事ができる。外来では、支え手帳に限らず問診等でもバックグラウンドを知ることはできるが、家での生活までは見られない。一方通行の情報共有だと、それ以上の生活感が見えてこないため、多職種間でのリアルタイムでの情報共有にICTを利用できるとよい。

(久松委員) 自由意見に「お薬手帳の充実」、手帳未交付者の意見で「読み書きが面倒」とあるが、関係者の意見や、地域包括支援センターの職員を通して利用者の生の声をすくい上げていけるとよい。
そろそろ市民に浸透させても良い段階である。

(日高委員) 本人ではなく家族との情報共有になっている。医療との連携の内容を本人も見れてしまうことによる問題もある。本人を置き去りにするのは良くないが、支援者と家族との間でのやり取りに関しては、ICTの方がやり易いと感じる。

(佐藤会長) やっていることは間違っていないが、実用に向けた突破口を見出すため、今後の方向性を含めた検討を引き続き行っていく必要がある。

(5) その他

- ・ 定期巡回・随時対応サービス開設セミナーの実施結果について（報告）

事務局より資料に基づき、説明した。

(佐藤会長) アンケートの結果に開設の話が少なかったとあるので、内容をより充実させる必要がある。47名の参加者のうち10名が開設の意向

があると回答しており、情報提供すれば事業者が増える可能性がある。

(佐藤委員) 47名の参加者の職種割合と開設のフォローアップについて教えて欲しい。

(事務局) 職種の割合は承知していないが、事業所としては居宅介護支援事業所、訪問看護事業所が比較的多く、既に定期巡回・随時対応型訪問介護看護を開設している事業所からの参加もあった。開設のフォローアップについては、補助金がある。また、開設にあたっての具体的な相談は福祉基盤課で行っている。

- ・もしバナゲームカードの地域包括支援センターへの配布について（情報提供）事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(大塚副会長) 今後、医療と介護サービスのあり方が大きく変わる節目のタイミングとなる。ヘルパーの担い手の不足や高齢化により、使うことができなくなるサービスも増えてくる。在宅生活が難しくなるほか、施設での介護職の確保も難しい状況になる。人材確保の問題の解決と同時に、地域で住み続けることを医療と介護がいかにか支えていくか、これまでのあり方に囚われることなく、次の時代に向けたサービスを構築していく必要がある。

各団体の現場での実情や課題を聞かせていただきながら、より良い課題解決の方法を検討していければと思う。

3 閉 会

以 上

相模原市在宅医療・介護連携推進会議委員出欠席名簿（別紙）

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	今森 淳子	地域包括支援センター		欠席
2	大塚 小百合	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	副会長	出席
3	斉藤 正和	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
4	佐藤 隼	相模原地区訪問リハビリテーション連絡会		出席
5	佐藤 聡一郎	一般社団法人相模原市医師会	会長兼 部会長※1	出席
6	澤田 弘之	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
7	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会		出席
8	田代 真士	相模原市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会		出席
9	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
10	土田 陽子	さがみはら介護支援専門員の会		出席
11	中野 太郎	公益社団法人相模原市病院協会		欠席
12	久松 信夫	学識経験者（桜美林大学）		出席
13	日高 明夫	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
14	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		欠席
15	細山 賢太郎	地域包括支援センター		出席
16	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会	部会長※2	出席
17	八木 克介	相模原市認知症高齢者グループホーム連絡会		出席
18	矢口 君代	地域包括支援センター		出席
19	吉澤 明子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
20	阿部 徳子	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		欠席

（敬称略、50音順）

※1 連携体制等に関する部会

※2 高齢者救急に関する部会